

男女共同参画施設等(北九州市立男女共同参画センター、東部及び西部勤労婦人センター)

指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 第1回 平成27年 8月21日(金) 10:05~11:30
第2回 平成27年10月26日(月) 10:00~11:30
- 2 場 所 第1回 北九州市庁舎14階 141会議室
第2回 北九州市庁舎15階 特別会議室B
- 3 出席者 第1回
(検討会構成員等)
大島構成員、田村構成員、角田構成員、森構成員、向笠臨時員
(事務局)
総務企画局女性の輝く社会推進室長、男女共同参画推進課長、
男女共同参画推進係長
第2回
(検討会構成員)
大島構成員、木村構成員、田村構成員、角田構成員、森構成員
(事務局)
総務企画局女性の輝く社会推進室長、男女共同参画推進課長、
男女共同参画推進係長

4 会議内容

(1) 条件付き公募方式採用の妥当性について(第1回)

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 施設の管理運営に関する要求水準及び条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。質疑応答。

(構成員等) 男女共同参画を進めていく機能は十分に理解できるが、貸し館業務など施設の管理に関しては、管理専門の事業者の方が適しているのではないか。また、事業を実施する場所は、必ずしも大手町ビルでなくてもできるのではないか。

(事務局) 男女共同参画団体等の利用に際しては、事業実施の企画や運営についてムーブ等の職員がアドバイス等を行っている。単なる貸し館業務だけでなく、ソフト面と連動した調整も行っており、こうした点を評価している。一方で、ソフト面とハード面の切り離しを検討したが、効率性などの面で、現段階では一体的に行ったほうが良いと判断した。また、特定目的を持った施設等のあり方については、別途、公共施設のマネジメントの中で見直しを検討しているところ。

(構成員等) 施設の利用者のうち、男女共同参画関連の利用者の割合はどの程度の割合を占めるか。

(事務局) 男女共同参画センター・ムーブの年間利用者は平成26年度に約27万人だが、指定管理者が直接行う主催事業で約12万人の利用実績がある。残る約15万人は貸室利用になるが、詳細なところは把握できないが、この中にも男女共同参画関係団体の利用も含まれているので、少なくとも半数以上の割合は男女共同参画関連の利用となっている。

(構成員等) 予算を含め行革への対応も柔軟に行うことができるのか。

(事務局) 条件付き公募であれば、提示する予算の上限以下で、指定管理料を毎年協議することになるため、柔軟に対応できると考えている。

(構成員等) 指定管理期間が5年となっている理由はあるか。

(事務局) リース等の契約は長期的な継続契約になっているものがあり、ある程度の期間を設けないとコストの削減ができないということで5年とした。

(構成員等) 指定管理者候補のこれまでの実績で、外部委託をしているものはどの程度あるのか。

(事務局) 清掃や警備、施設の点検などの業務は外部委託している。事務や契約、調整等は指定管理者で対応している。

○ 構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構成員等) これまでの男女共同参画の取り組み、経緯を踏まえ、条件付き公募方式は妥当である。

(構成員等) ビルの清掃や保安警備業務については、フォーラムからさらに外部に委託している状態があるため、将来的には、指定管理の対象事業とは切り離して一般公募も検討した方がよいと考える。

(構成員等) 男女共同参画に関するソフト面の重要性は理解できる。一方で、3施設の具体的内容を見ると、会議室、ホール、体育館など市民センター的な施設がほとんどであり、男女共同参画に必ず必要な施設とは言えない内容である。市がハード面に関しては、市全体であり方の見直しを検討していることを総合的に判断して妥当性有りとする。

(構成員等) 管理等については、貸しビル等の管理専門業者が行う方が良いと思うが、そのために、市の直接入札の実施、職員の配備等を考慮するとコストがかさむと考えられる。

(構成員等) 外部委託する事業者の選定について、経費をより効率化する努力を希望する。

(構成員等) 選定後の評価は、厳正・適正に行い、検証していくことが重要である。

○ 条件付き公募方式採用の妥当性について、総括を行った。

(構成員等) 各構成員等の意見は、すべて妥当性「有」となった。

(2) 指定管理者候補の選定について（第2回）

○ 指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明

○ 申請団体より提案概要に関してプレゼンテーション、質疑応答。

(構成員) 利用者からの苦情やトラブルはどの程度あるか。あるいは苦情はほとんどないのか。

(申請団体) 年に数件程度のトラブルがある。トラブルがあった場合は、関係者で協議した上で再発しないようマニュアル等の更新を行っている。

(構成員) 職員の雇用形態について、具体的な説明をお願いします。

(申請団体) 市からの派遣職員、市OB職員の他は、嘱託職員である。嘱託職員は1年雇用で、勤務成績が良好であれば5年まで更新できる形態である。

(構成員) 職員研修はどのようなことが行われているか。

(申請団体) 毎月の閉館日に接遇等の職員研修を行っている。また、職員の資質を高めたり、新しい事業に反映させるため、外部への研修に積極的に職員を派遣している。

(構成員) 講座数、利用人数などの目標が設定されているが、28年度から32年度までが同じ数値となっているが、その理由は。

(申請団体) 限られた人数、限られた予算で対応する必要があり、事業の選択と集中を図り、内容を見直しながらも、講座数などの数値は維持していく考えである。

(構成員) 講演会などへ何をきっかけに参加しているかわかるか。

(申請団体) 参加者へのアンケートをとっている。効果的なのは市政だよりや新聞である。昨年からフェイスブックを始めるなど、情報発信に努めている。

(構成員) ムーブカフェとは、具体的にどのような事業か。

(申請団体) 次世代リーダー養成講座の終了生などが自由に集い、相互の悩みを相談したり、情報交換したりする場を提供する事業である。

○ 構成員は、申請団体の退室後に意見交換

(構成員) 男性や子どもの男女共同参画は、男女共同参画基本計画の中にも入っている。ケアメンなど、男性向けの講座等は今からもっと大切になる。

(構成員) ムーブを良く利用するが、男性向けのクッキング教室は盛んだと思う一方で、男性がムーブに入っていくのは気が引けるのではないかという気がしている。男性が入りやすくなる工夫も必要。

(構成員) 男女共同参画に向けて、料理や介護の技術を学ぶだけでなく、その場に集まって話をするような拠点が、ムーブだけでなく、いろいろあるといい。

(構成員) ムーブやレディスが、さまざまな情報や課題を共有しながら行政等に橋渡しをして接点になるような施設になっていけばよい。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自項目ごとの適否を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換
 - (構成員) 財算基盤や基本財産もしっかりしているので問題はない。
 - (構成員) スタッフの平均値ではあるが、勤続年数が短いことが気になる。現場の知識や経験が継承される仕組みの必要性を感じる。
 - (構成員) アンケート等を活用しながら、意図している対象者に情報が届けられるよう、効果的で効率的な広報の仕組みの検討や工夫をして欲しい。
 - (構成員) 社会の変化の中で、常に新しい事業、必要な事業を検討、実行されようとしており、とても良い。
 - (構成員) 人材基盤で、市の出向者・OB等のみで構成されており、ノウハウや専門性をいかに引き継いでいくかが課題。
 - (構成員) 申請団体の収入の大部分が市からの委託料収入と補助金になっており、自主事業を大きくしていてもいい。これまで培ってきた高い専門性を、北九州市だけでなく、他の自治体の同じような団体と連携することで収益面での効果も得られるのではないか。
 - (構成員) 限られた予算や人員の中で、大変よく取り組まれていると感じた。

- 意見交換を行った後、各構成員の審査結果を取りまとめ、検討会を終了した。